



立命館大学人間科学研究所創立20周年記念総会/立命館土曜講座 公開講演会

# 人間科学の未来-多様性を架橋する

人間科学研究所では、広く人間と環境に関するテーマについて、個別の学問領域(学範=ディシプリン)とそれらの共同(学際的研究)だけでなく、具体的社会課題の解決のために、新しい方法論を創造しつつ新しい研究を開拓する「学融的研究」とその社会実装に取り組んでいます。

20周年記念総会では、今後の人間科学研究の方向を探るべく、新型コロナウイルス感染症パンデミックや東日本大震災といった危機的状況下において「つながること・支えること」を考えるシンポジウムを行います。

また、今日的課題に取り組む2つの重点プロジェクト-「修復的司法—法と人間科学」「シームレスな対人支援」から、それぞれの代表的な成果についてご報告いたします。

2021年 **2月27日** 土 13:00-17:00



参加  
無料

要事前  
申込

開催形式 **オンライン(ZOOM)**

◎お申込みは、人間科学研究所もしくは土曜講座ホームページ応募フォームにてお願いいたします。  
情報アクセス保障ご希望の場合は、お早めにその旨ご連絡をお願いいたします。

## 第1部 13:00-14:30 研究報告 人間科学の最前線

人間科学研究所の多彩な研究の中から、重点プロジェクトとして推進してきた研究について報告を行います。  
学際・学融・架橋・実装・国際展開など、当研究所で検討し、重視してきた考え方とともに2つのプロジェクトを紹介いたします。

### 1 「修復的司法—法と人間科学」プロジェクトから

- 若林 宏輔 (総合心理学部 准教授/立命館グローバル・イノベーション研究機構拠点リーダー) 修復的司法の視点から「法と対人援助」プロジェクトを振り返る
- 森久 智江 (法学部 教授/立命館グローバル・イノベーション研究機構拠点・修復的司法グループ・リーダー) 修復的司法および「立ち直り」の視点から「法と対人援助」を展望する

### 2 「シームレスな対人支援」プロジェクトから

- 矢藤 優子 (総合心理学部 教授/立命館グローバル・イノベーション研究機構拠点リーダー) 乳幼児期から老年期まで、科学的根拠に基づくシームレスな対人支援を実践する
- 土田 宣明 (総合心理学部 教授) 対人支援の視点から「高齢者プロジェクト」を振り返る

【座長】

- サトウタツヤ (総合心理学部 教授)

## 第2部 14:40-17:00 シンポジウム 「つながること・支えること」の人間科学—危機に学び、未来へ結ぶ

現在進行中の新型コロナウイルス感染症のパンデミックに象徴されるように、震災、原発事故、戦争、テロリズムなどに関わり、立命館大学人間科学研究所発足以来の20年において、私たちは多くの危機に直面してきました。危機と隣り合わせにありながら、人間科学はそこから何を学び、どのような実践を行ってきたのだろうか。私たちは、つながり・支えることについて、これまで蓄積された知(経験知、身体知、実践知、形式知)から何を振り返り、次なる危機に備えてどのような社会実装をしていけばよいのだろうか。

本シンポジウムでは、こうした問題意識をふまえつつ、今後の「つながること・支えること」の人間科学を考える、未来志向の議論を行います。

【シンポジスト】

- 中村 正 (産業社会学部 教授) 「多様性と社会実装の20年—立命館の人間科学」
- 松田 亮三 (産業社会学部 教授/人間科学研究所 所長) 「支えることの架橋—ゲノム医療とAIの時代を迎える中で」
- 仲谷 善雄 (学校法人立命館 総長/立命館大学 学長) 「つながりを創る—思い出工学が目指すもの」
- 松原 洋子 (学校法人立命館副総長・立命館大学副学長/立命館大学大学院先端総合学術研究科教授/元人間科学研究所所長) 「支える」とは？—ダイバーシティ・アクセシビリティの視点から

【モデレーター】

- 安田 裕子 (総合心理学部 准教授)

# 人間科学の未来-多様性を架橋する

## 第1部 登壇者紹介

### サトウタツヤ (佐藤達哉)

立命館大学総合心理学部/人間科学研究科教授。立命館大学ものづくり質的研究センター長。専門は、文化心理学、心理学史、法と心理学。プロセスを捉える質的研究法・TEA(複線経路等至性アプローチ)の開発者のひとり。最近、ビッグデータよりナノデータ!をスローガンに質的研究とものづくりの融合を目指す。『日本における心理学の受容と展開』(北大路書房)『TEMではじめる質的研究』(新曜社)

### 若林 宏輔 (わかばやし こうすけ)

立命館大学総合心理学部・准教授。人間科学研究所運営委員。専門は法心理学、社会心理学、心理学史。主に刑事司法分野の制度的・心理学的バイアスを研究。R-GIRO「修復的司法観による少年高齢化社会に寄り添う法・社会システムの再構築」プロジェクト拠点リーダー。主な書籍は『法心理学への応用社会心理学アプローチ』(ナカニシヤ出版)、『法と心理学への招待』(有斐閣)等。

### 矢藤 優子 (やとう ゆうこ)

立命館大学総合心理学部/人間科学研究科教授。人間科学研究所副所長。拠点形成型R-GIRO研究プログラム「シームレスな対人支援に基づく人間科学の創成」研究プロジェクトリーダー。専門は乳幼児心理学、比較発達心理学。日本だけでなく韓国、中国などアジア各国で調査を実施し、科学的根拠に基づく子育て支援への提言を目指す。

## 研究発表 (ポスター報告)

研究所ホームページにて人間科学をテーマとする研究報告を行います。

詳細は当研究所ホームページをご確認ください。

<https://www.ritsumeihuman.com/>

### 森久 智江 (もりひさ ちえ)

立命館大学法学部教授。犯罪学、少年法、刑事訴訟法を専門としている。九州大学法学研究院助教、立命館大学法学部准教授を経て、2017年より現職。犯罪をした人の社会復帰と犯罪現象に向き合う社会のあり方について、Restorative Justiceの観点から研究。近年は主に犯罪をした障がいのある人への対応に重点をおいて研究続けている。主な共著として、『司法と福祉の連携』の展開と課題』(現代人文社、2018)、『司法の期待に福祉はどう応えるのか〜福祉の自立性と司法との連携〜』(2016年、独立行政法人国立重度知的障害者施設のぞみの園)など。

### 土田 宣明 (つちだ のりあき)

立命館大学総合心理学部/人間科学研究科教授。人間科学研究所運営委員。専門は発達心理学。行動調節機能の形成過程と衰退過程を実験的な課題を用いて検討している。著者は『エピソードでつかむ老年心理学』(共編著、ミネルヴァ書房)、『行動調節機能の加齢変化 抑制機能を中心とした検討』(北大路書房)等。

## 第2部 登壇者紹介



### 仲谷 善雄 (なかたに よしお)

学校法人立命館総長・立命館大学学長。1981年大阪大学人間科学部卒。89年神戸大学で学術博士を取得。三菱電機入社後、研究者として防災情報システムを中心に、その開発に携わる。スタンフォード大学客員研究員として研究留学。2004年より立命館大学情報理工学部教授。同学部長、学校法人立命館副総長・立命館大学副学長などを経て、2019年現職。専門分野は人工知能、ヒューマンインターフェース、認知工学、思い出工学、感性工学など。



### 松原 洋子 (まつばら ようこ)

学校法人立命館副総長・立命館大学副学長/立命館大学大学院先端総合学術研究科教授/元人間科学研究所所長。専門は、生命倫理、科学史、科学技術社会論。日本の優生政策史およびアクセシビリティに関心をもつ。『優生学と人間社会』(共著、講談社)、『図書館の障害者サービスと電子書籍』(松原聡編『電子書籍アクセシビリティの研究』、東洋大学出版会)等多数。



### 松田 亮三 (まつだ りょうぞう)

立命館大学産業社会学部教授/人間科学研究所所長。専門は、社会保障、特に医療政策。近年は、レジリエントな医療、衡平志向の医療を研究課題としている。近著に、『刑事施設の医療をいかに改革するか』(分担執筆、日本評論社)、『社会的弱者への診療と支援格差社会アメリカでの臨床実践指針』(監訳、金芳堂)等。



### 中村 正 (なかむら ただし)

立命館大学産業社会学部/人間科学研究科教授。人間科学研究所の創設に携わる。人間科学研究所運営委員。専門は社会病理学、臨床社会学、社会臨床研究。暴力や虐待の加害者臨床も実践している。内閣府男女共同参画審議会「女性への暴力専門調査会委員」等もつとめる。『家族の病理とドメスティックバイオレンス』(作品社)、『治療的司法の実践』(第一法規)等多数。



### 安田 裕子 (やすだ ゆうこ)

立命館大学総合心理学部/人間科学研究科准教授。人間科学研究所運営委員。専門は、臨床心理学、生涯発達心理学、質的心理学。『ITEMでひろがる社会実装—ライフの充実を支援する』(共編著、誠信書房)、『不妊治療者の人生選択—ライフストーリーを捉えるナラティブ・アプローチ』(新曜社)等を執筆。